

産業カウンセラー、特にキャリアコンサルタントの多くの理論や解説は、外国とりわけアメリカの学者が多く発信している。ここで特筆すべきことは、キャリアコンサルタントの分野では、学者、大御所が現時点で健在なこと、

ナビゲーター

すなわち、それだけその学問分野が新しいということである。通常、テキストに出てくるような学者や提唱者は故人だろうと思うが、この分野は歴史が短くそうではないのだ。

「偶発性の理論」で有名なクランボルツ博士は、日本で

産業カウンセリング理論と私の実践

も特に人気が高い。「偶然が人生を左右する」という理論は、経験的にも納得できるものである。日本産業カウンセラー協会と同様にキャリアコンサルタントの研修を行なっている日本マンパワーを母体とする「特定非営利活動法人日本キャリア開発協会（JCDA）」は、米国のキャリアコンサルタントの動向や論文を常に注視している。米国では毎年、キャリアコンサルタントの全米会議を実施しているが、2003年のサンフランシスコでの会議では、クランボルツ博士ほか著名な学者

産業カウンセラーとの出会い (3)

が一堂に会するので日本からのツアーを組むとの連絡がJCDAからあったので応募した。実際に博士にお会いし、たどたどしい英語ではあったが会話もできた。それから16年後の2019年に博士が90歳で逝去されたとの報に接した時はあの時の研修の光景を思い出した。

もうひとり、米国の学者でお会いすることができたのは、組織心理学の創始者で「キャリア・アンカー」、

「キャリア・サバイバル」の提唱者エドガー・シャイン博士である。これは、私のキャリア

リアコンサルタントの古い仲間である藤田廣志氏のシャイン博士との縁で実現し、40人の仲間とサンフランシスコ近郊で1週間の合宿による研修を行なった。シャイン博士は90歳を超えた高齢であったが、昨年になって逝去されたとの報が入った。合掌。

さらに2020年の冬には、ヨーロッパの事情についても知見を得るためフランスでのキャリアコンサルタントの実際の状態を見ようということ

で、これも前記藤田さんが主導され実現した。キャリア

ンコンサルタントの最近の手法である「社会構成主義・ナラティブ」手法の権威であるギンヤール博士ほかにお会いするとともに、パリのハローワークや職業訓練所を視察することができた。パリ市内のホテルに1週間近く滞在し、凱旋門、エッフェル塔、ルーブル美術館を訪問することができた。3月2日に帰国したが、帰国日からコロナ感染がまん延し渡航中止となったが、我々のツアーはまさにコロナと紙一重であった。ルーブル美術館は私が見学のために訪れた翌日から閉鎖され、一日違えば訪問できなかったのである。

今回のシリーズ「産業カウンセリングの理論と私の実践」は今回で終了します。長期間にわたってお読みいただいた読者に感謝するとともに、少しでもご参考になればと思います。

キャリアコンサルタントの縁で米仏訪問

【社会保険労務士・中小企業診断士・産業カウンセラー 杉本和夫】

（次回から「21世紀シニア社会をデザインする」を掲載します）

